

第1回千葉県・千葉市教員等育成協議会議事録

日時：平成29年5月22日（月）

午前9時00分から同11時30分まで

場所：県庁中庁舎9階 企画管理部会議室

1 出席委員（敬称略・名簿順）

保坂 亨，南部 昌敏，内海崎貴子，松本 文化，葉山 幸雄，森田加代子，中村 祥一，
本山 哲也，百瀬 明宏，岡田 哲也，中嶋のり子，杉本 秀彰，奥山 慎一，小林 勉，
小畑 康生，佐川 桂子，大野 英彦，八木 達彦，金井 一喜，北林 栄峰，稲葉 泰，藤田 武，
安藤 久彦

2 次第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 中教審答申及び教育公務員特例法改正の概要説明

(4) 千葉県の教育の現状

ア 現行の研修体系

イ 研修の現状

（質疑応答）

ウ 採用の現状

エ 人事の現状

オ 免許の現状

（質疑応答）

カ 千葉市から現行の研修体系や研修の現状について

(5) 他県の先行事例の説明，教職員等育成指標の策定方針（案）について

(6) 大学側から説明

(7) 意見交換

ア 教員等育成指標の策定方針（案）について

イ 教育委員会と大学の連携の在り方について

(8) 閉会

3 質疑応答，意見交換の内容

① 質疑応答の内容

- ・ 免許状更新講習について、毎年度の更新数を示してほしい。
→ 次回以降示せるように作成したい。
- ・ 研修の成果と課題を示してほしい。
→ 次回以降示せるように作成したい。
- ・ 平成28年度の職員の年齢構成はどうなっているか。
→ 40代が16%。これは、H3あたりから採用が止まったため。
- ・ 平成22年度以前の体系はどうなっているのか、数字として示してほしい。
→ 平成22年の状況も、30代、40代は少なかった。今後正確な数字を示したい。
- ・ 退職者の再任用について。校内の分掌や役割をしているのか。退職者の再任用の数を示し、分掌等を示してほしい。
→ 退職者の経験を活用したい。新規採用者の育成，少人数の指導，場合によっては担任も行っている。数は次回示したい。

②意見交換の内容

ア 教員等育成指標の策定方針（案）について

- ・策定方針はこの通りでよい。
- ・実習の受け入れは今後増えるだろうが、大学と連携して、できるだけ受け入れるようにしている。
- ・大学の課程の中に特別支援教育を盛り込むことはできるのか。その必要がある。
- ・今後の社会の形成者をどう育てるか、という視点が必要。
- ・養成段階では、大学と県とのすり合わせが大切である。また、たまごプロジェクトを高校でも取り入れたい。
- ・採用段階では、教科の専門性に不安を感じている。専門性を有する教員の確保という視点が必要。
- ・研修段階では、今後の20年経験者（ベテラン）への研修をどうするのか。
- ・最初の段階から「研修履歴」の蓄積が大切なのは。
- ・指標と人事評価の能力開発シートの項目とのリンクが大切。
- ・教育実習は、範を示すという意味で、現場にも有意義。
- ・特臨講師を積極的に進めてほしい。
- ・校内OJTの観点を活かしたい。
- ・児童理解ができる、児童の気持ちに寄り添える教員が必要。
- ・若くても力をもった教員、経験があっても伴わない教員が見られる。経験年数を目安に指標があるとよい。
- ・教員はOJTで育つ部分が多い。研修で身に付けた力を、人を育てることに使えているか、人を育てられているかなど、管理職の育成が大切。OJTの位置付けを学校でどうするか。管理職の指標は、教員とは別に必要。
- ・研修の見える化が大切。
- ・学習指導だけでなく、生徒指導、教育相談の研修の充実を。
- ・研修を整理して示していくべき。
- ・教員の発達障害、保護者とうまくいかない理由が分からずに本人が悩んでいることがある。採用の段階で、短い時間で本人を見極めることが難しい。
- ・研修では地域差があり、地域によっては研修の充実が厳しい所もある。

イ 教育委員会と大学の連携の在り方について

- ・免許更新に関する平成30年問題に対応する必要がある。1000人が更新講習を受けることに危機感を感じている。教育委員会と大学が共催で行う必要がある。
- ・教職実践演習、指標を作る上での情報もある。
- ・研修に関して、大学院に入学した時点で、専門職基準を示す。その上で自己評価すると、自分の力量を自覚することができる。
- ・大学が持っている四年時（卒業時）の指標は、聖徳大にもあるし千葉大にもある。県の指標と大学の指標の擦り合わせができると連携できる。養成・採用時の指標の参考になるのではないか。
- ・履修カルテを用いている。実習に出す前に、どれだけの能力を身に付けたかを把握できる。着任時に身に付けておいてほしい指標となる。
- ・私大がどんな基準で養成をしているか知ることが大切。
- ・コアカリキュラムについて示してほしい。
- ・研修も協議会形式が多い。研修でしっかり話せる教員が多いのは大学の養成のお陰である。